

「中東から宮崎へ ナフサが支える暮らし」

鵬翔高等学校 1年 ^{やま}山 ^だ田 ^こ心 ^{はる}遥

「ナフサ」

たった3文字のこの言葉。あなたは知っていますか。

今年になって「ナフサ」という言葉を耳にする機会が増えた。今まで知らなかったその言葉は、原油価格の上昇や物価の高騰を伝えるニュースの中で頻繁に登場するようになった。ナフサとは、原油から作られる石油製品のことである。プラスチックや合成繊維など、私たちの生活に欠かせない製品の原料だ。今、自分の部屋を見渡しただけでも、ペットボトル、文房具、衣類など、普段何気なく使っているものはナフサばかり。私は、毎日ナフサに囲まれて生活していたのだ。

私が住む宮崎県は、車社会。車が主要な移動手段であり、私自身も車送迎で通学している。都市部に比べて公共交通機関が発達しておらず、私のように、通学や通勤、日常生活の移動を車に頼っているのが現状だ。つまり、ガソリン価格の変動が身近な問題として感じやすい地域でもあるといえる。

毎日のように世界中で報道される、中東情勢の緊迫化。少し前までは、私にとって遠い国の出来事のように感じられていた。しかし、原油価格の上昇という事実は、嫌でも現実を突きつけ、私たちに「今まで当たり前だったものがそうではなくなる合図」として、ナフサのニュースを投げかけてきた。中東情勢の緊迫化による原油価格の上昇は、車社会に必要なガソリン代だけでなく、製品価格の変動にも影響を与え、私たちの暮らしに大きく関わっている。遠く離れた場所で起きている出来事が、実は、私たちの暮らしと深く結び付いていたのだ。

また、宮崎県は、台風が多い地域である。台風が接近するたびに、私の家では生活必需品を備蓄する。そこで気付いたのは、防災用品にもナフサが多く使われていることだ。ラップや懐中電灯など、災害時、私たちが生きるために必要なもの。さらに、注射器や点滴、マスクなど、医療現場で使われるものもそうである。もし、これらがなくなれば、安全で衛生的な医療を提供することは難しくなるだろう。ナフサは、人々の命や健康を支える重要な役割も担っているのだ。

…ナフサは「見えない存在」であった。私は、その存在を意識することなく、便利に快適に生活する毎日がずっと続くと思っていた。しかし…ナフサもまた「限りある存在」なのだ。そのナフサが、私たちに、暮らし、防災、医療、そして地域社会を支える重要なものであることだけでなく、私たちの生活が世界と繋がっていることにも、気づかせてくれた。

近年、プラスチックごみの増加や地球温暖化などの環境問題も深刻化している。私たちの社会は、多くの場面で資源に支えられているため、今すぐナフサを使わない生活を送ろうと試みることは現実的ではない。今、一人ひとりにできることは、目の前の無駄遣いを減らし、積極的に3R（リデュース・リユース・リサイクル）を進める意識の改革。これからは、便利さを当たり前と思わず、その価値と課題の両方を理解することを大切にしていきたい。

「見えない存在」が支える暮らしを未来につないでいくために、これからも私は、ナフサをはじめ、身近な資源を大切に使うことを意識し、行動していきます。

大好きな宮崎の地で、変わらない日々を送り続けられるように。